

# 第1学年歯科医院見学実習における学生の自己理解 —エントリーシート作成に伴う学生の自己覚知について—

山崎 晴美<sup>1,3</sup> 上原 任<sup>1,3</sup> 三澤麻衣子<sup>1,3</sup>  
尾崎 哲則<sup>1,3</sup> 桑田 文幸<sup>2,4</sup> 中島 一郎<sup>1,4</sup>

## Self-awareness and Performance Enhancement of Students in the Early Exposure Course in Dental Clinics —Effectiveness of Application Forms (“Entry Sheets”) for Self-understanding

Haruyoshi Yamazaki<sup>1,3</sup>, Tamotsu Uehara<sup>1,3</sup>, Maiko Misawa<sup>1,3</sup>,  
Tetsunori Ozaki<sup>1,3</sup>, Fumiya Kuwata<sup>2,4</sup> and Ichiro Nakajima<sup>1,4</sup>

### Abstract

As part of the Early Exposure Course, students are required to submit “Entry Sheets” to their supervising dentists at the dental clinics to which they are assigned. They are expected to fill in the question forms in order to share information about themselves. The questions asked are as follows:

- 1) Why did you choose this clinic?
- 2) Do you envision yourself becoming a dentist after observing the clinical activities at this clinic?
- 3) Please describe yourself, emphasizing your strengths.
- 4) In addition to the course subject, in what other activities do you participate?
- 5) Please describe how you see your psychological and moral self after graduation.

After the course at individual clinics, the present authors requested the students to answer questionnaire forms to fathom their self-awareness after submitting Entry Sheets.

The present authors evaluated the questionnaires and determined that the use of Entry Sheets as application forms was significantly effective for self-recognition as well as a means for introducing the student to the dentist in charge. A further benefit was that it raised the students' awareness of their *raison d'être* in the context of their futures as dentists.

**Key words:** Self-awareness, Early Exposure, Entry Sheets, Application Form, Professionalism.

<sup>1</sup> 日本大学歯学部 医療人間科学分野

<sup>2</sup> 日本大学歯学部 基礎自然科学分野 (化学)

<sup>3</sup> 日本大学歯学部総合歯学研究所社会歯学研究部門

<sup>4</sup> 日本大学歯学部総合歯学研究所歯学教育研究部門

〒101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13

(受理: 2014年9月30日)

<sup>1</sup> Department of Community Dentistry, Nihon University School of Dentistry, Tokyo, Japan

<sup>2</sup> Department of Basic Science, Nihon University School of Dentistry, Tokyo, Japan

<sup>3</sup> Division of Social Dentistry, Dental Research Center, Nihon University School of Dentistry

<sup>4</sup> Division of Dental Education, Dental Research Center, Nihon University School of Dentistry

1-8-13 Kanda-Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-8310, Japan

## 1. 緒 言

本学歯学部医療人間科学教育では、「幅広い教養と総合的判断力を身につけることの意義を意識するとともに、歯科医療の現場を体験することにより、将来の目標を確認し、医療人と忖意の良識と豊かな人間性を体得する」(引用?)ことを目的として、第1～4学年、および第6学年で教科を展開している。その中で、早期体験学習 (Early Exposure) として、第1学年では歯科医院見学実習を、第2学年では歯科病院見学実習を、第3学年では社会福祉施設見学実習を実施している。早期体験学習は、新入歯科学生に対して勉学の目的を早期に明確に認識させるために現場を体験させることであり、宮川(2009)の報告では全歯学部で実施されている<sup>1)</sup>。本学歯学部第1学年の歯科医院見学実習は前期教科の一環として夏期休暇中に行われるが、学生の見学目的を明確化し、また見学実習の成果を確実にしていくために、事前学習の機会を講義と演習形式で設けている。

図1に歯科医院見学実習の学びの流れを示す。学生は見学に先立って歯科医院を事前訪問し見学の打ち合わせを行う。この事前訪問までを事前学習と位置づけている<sup>2)</sup>。

### ①講義による情報の伝達：

歯科医療とは何か、自我の発達、対人関係、

社会人としてどのような態度が望まれるか、誓約書作成、歯科医院とは何か、地域における歯科医院の役割等

### ②演習形式による自己理解：

マインドマップによる歯科医療に対するイメージの探索

### ③事前調査：

自分の住む地域にある歯科医院のフィールド調査、実習先歯科医院のインターネット等による事前調査

### ④グループ・ディスカッション：

KJ法によるグループ・ディスカッションを通じて実習テーマの検討

### ⑤エントリーシートの作成

### ⑥個別実習テーマ(仮)の決定

### ⑦事前訪問の日程調整

服装・髪型を整える等の準備

### ⑧事前訪問(採用面接)

個別実習テーマ、実習日の決定等の見学当日の打ち合わせ。歯科医院は受入の可否の決定を行う。

これらの活動の中で、一般にエントリーシートは採用活動などで広く用いられているものであり、志望動機や自己紹介を行うものである。本実習では、第1～3学年の見学実習に共通で使用できるエントリーシートを開発し、使用している。これを事前訪問時に実習先歯科医院の指導医に提出させている。エントリーシートはA3判に以下の5項目を記載するものである(図2)。

①本施設の見学を希望する理由は何ですか

②10年後のあなたにとって本施設の見学がどのように役立っていると思いますか

③あなたの自己PRをしてください

④今まで学業以外で力を入れてきたことは何ですか

⑤あなたは大学を卒業したらどのような社会人になりたいと思っていますか

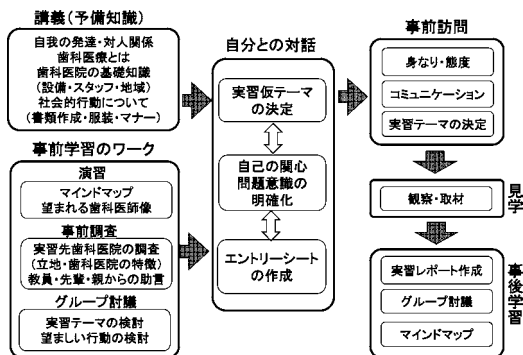


図1 歯科医院見学実習の学びの流れ

## 第1学年歯科医院見学実習における学生の自己理解

歯科医院見学実習エントリーシート2014				
			平成26年	月
			学籍番号 (4桁)	日記入
ふりがな			男	年
氏名			女	満
年齢			歳	
性別				
学校名・学年	日本大学 歯学部 歯学科 第1学年 在学中			
見学を希望する歯科医院				
本施設の見学を希望する理由は何ですか				
10年後のあなたにとって本施設の見学がどのように役立っていると思いますか				
あなたの自己PRをしてください				
今まで学業以外で力を入れてきたことは何ですか				
あなたは大学を卒業したらどのような社会人になりたいと思っていますか				

図2 本学歯科医院見学実習で使用のエントリーシート (A3判)

本研究では、医療人教育における教材としてのエントリーシートの有効性について、学生へのアンケートを実施して検証する。

## 2. 方 法

調査対象：2014年度本学歯学部第1学年141名。

調査票：調査用紙は前述のエントリーシート①～⑤の項目作成について、以下の(1)～(4)の設問をA4判に印刷したもの。記名式とした(図3)。

- (1)「もっとも回答しやすかったのはどれか」番号で選択し、その理由を自由記述で記入する。
- (2)「もっとも回答しにくかったのはどれか」番号で選択し、その理由を自由記述で記入する。
- (3)「エントリーシート作成で参考にしたものは

何か」キーワード(フリーワード)3個までで回答する。

- (4)「エントリーシートを作成して感じたこと」を自由記述で問う。

調査時期：見学実習終了後の事後学習(マインドマップ作成)終了後。

手続：教育研究の目的の説明、協力への依頼、協力は自由であり成績には反映させないことを説明した後、アンケート用紙を配布、その場で記入回収した。

## 3. 結 果

回収票数は128票、回収率90.8%であった。

- (1) 最も回答しやすい項目と回答しにくい項目について

エントリーシート記載項目について「最も回

表1 回答しやすいもの・回答しにくいものの分布

記入項目	回答しやすいもの	回答しにくいもの
①本施設の見学を希望する理由	16	52
②10年後に本施設の見学がどのように役立っているか	16	24
③あなたの自己PRをしてください	36	25
④今まで学業以外で力を入れてきたことは何か	46	12
⑤卒業したらどのような社会人になりたいか	15	15
	129	128

(複数回答1票を含む)

アンケート:エントリーシートについて

・歯科医院見学に先立って作成したエントリーシートについて、皆様のご意見をお聞かせ下さい。本アンケートの結果は、授業研究の資料として使用し、今後の授業の参考にさせていただきます(評価とは無関係です)。

I. エントリーシートの項目についてお尋ねします。

[項目]

- ①本施設の見学を希望する理由は何ですか。
- ②10年後のあなたにとって本施設の見学がどのように役立っていると思いますか。
- ③あなたの自己PRをしてください。
- ④今まで学業以外で力を入れてきたことは何ですか。
- ⑤あなたは大学を卒業したらどのような社会人になりたいと思っていますか。

1. もっとも回答しやすかったものはどれですか? またその理由は?

番号 [ ]

理由 [ ]

2. もっとも回答しにくかったものはどれですか? またその理由は?

番号 [ ]

理由 [ ]

II. エントリーシートを作成する時に参考にしたものがあればあげて下さい。[3つ以内]

[ ] [ ] [ ]

III. エントリーシートを作成してみて感じたことがあればご記入下さい。どのようなことでも結構です。

学年番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

図3 本研究で用いた授業アンケート

答しやすい/回答しにくい」と回答した数を表1に、またその理由を自由記述で回答した結果を分類したものを表2に示す。「最も回答しやすい」で多いのは、④「学業以外で力を入れてきたことは何か」が46名、③「あなたの自己PRをしてください」が36名、他の項目については15~16名となっている。「最も回答しにくい」項

目では、①「本施設の見学を希望する理由」が52名と多く、次いで③「あなたの自己PRをしてください」が25名、②「10年後に本施設の見学がどのように役立っているか」24名と続いている。

(2) エントリーシート作成で参考にしたもの

回答されたキーワード106件を分類した結果を表3に示す。見学先歯科医院のインターネット情報(25件)、インターネット(19件)とインターネットを通じた情報収集が多く行われている。次いで入試の時の自己推薦書(15件)、実習必携(14件)、エントリーシート参考書(9件)等があげられている。

なお、エントリーシートの項目①「本施設の見学を希望する理由は何ですか」を記入する際に、インターネットで調査した歯科医院の情報を参考にしたと思われる記載の見られる人数、そしてその記載内容の種類と件数を表4に示す。参考として、2009年のエントリーシートでインターネットからの情報を記入していると思われる件数も併記した。

(3) エントリーシートを作成して感じたこと

自由記述で得られた82名の回答を分類したものを表5に示す。肯定的な意見では、歯科医師としての将来のイメージが明確になった(19名)、自分を見直す良い機会となった(16名)と、自己理解を深めるのに役立ったと述べている。その他「作成すること自体が役に立つ(3名)、指導医とのコミュニケーションに役立った(2

## 第1学年歯科医院見学実習における学生の自己理解

表2 エントリーシート各項目への回答の難易の理由

①本施設の見学を希望する理由はなんですか			
回答しやすいと答えた理由		回答しにくいと答えた理由	
自分の目的意識がはっきりしていた	8	自分で選んだ歯科医院ではないので	38
興味・関心があった	2	歯科医院の情報が少ない	14
実習先の情報があったから	2		
他が回答しにくかったから	2		
受験でなれているから	1		
無回答	1		
計 16		計 52	
②10年後のあなたにとって本施設の見学がどのように役立っていると思いますか			
回答しやすいと答えた理由		回答しにくいと答えた理由	
学ぶべき事が明確だったから	10	未来の自分を想像できない	11
自分なりの歯科医師像を持っているため	3	見学前なのではっきりしない	4
自分にとって貴重な機会だから	3	想像できない	3
		この見学が10年後に役立つか疑問	3
		自分の目標が明確でないから	2
		両親歯科医師でないので想像できない	1
計 16		計 24	
③あなたの自己PRをしてください			
回答しやすいと答えた理由		回答しにくいと答えた理由	
受験で書いたから	14	自分の良いところを考えたことがない	8
自分のことだから	13	自己PRに慣れていない	6
自分のことはよくわかっているから	7	アピールできるものがない	6
自己PRは大切だから	2	自分について考えたことがなかった	3
		どの様に見られるか気になる	2
計 36		計 25	
④今まで学業以外で力を入れてきたことは何ですか			
回答しやすいと答えた理由		回答しにくいと答えた理由	
学業以外に力を入れてきたものがあるから	13	書くことが見あたらない	8
今までやってきたことを書けばよいので	11	学業以外で力を入れたことない	4
部活動を頑張ってきたから	7		
高校の時に頑張ってきたことがあるから	5		
大学受験の時に書いたから	4		
自分の長所を伸ばそうと思ってきたから	3		
自分のしてきたことに誇りを持っているから	2		
他が書きにくかったため	1		
計 46		計 12	
⑤あなたは大学を卒業したらどのような社会人になりたいと思っていますか			
回答しやすいと答えた理由		回答しにくいと答えた理由	
理想とする社会人について考えていた	10	先のことなのでイメージできない	8
理想の歯科医師像と重なるから	3	社会人という意識を持っていなかった	6
大学受験で問われる質問だから	2	質問自体に疑問	1
計 15		計 15	

表4 エントリーシートにおけるインターネット情報出現数（記載人数：2014年41名，2009年3名）

分類項目	2014年	2009年
診療内容（診療科，最新の検査設備，インプラント等）	18	
診療の方針（痛みの少ない，カウンセリング，指導等）	10	1
立地に関するもの（ビジネス街，住宅地，駅前等）	8	3
歯科医院の理念	6	
歯科医師（キャリア，学会活動，女性であること）	5	
設備について（エレベーター，おむつ交換，キッズスペース等）	3	
診療システム（訪問診療，担当医・担当歯科衛生士）	2	
患者（口コミ情報，遠くから）	2	
スタッフ（多い，研究している）	2	1
ホームページ（ホームページが良かった）	1	
項目件数合計	57	5

表3 エントリーシート作成で参考にしたもの

参考にしたもの	出現数
見学先の歯科医院のインターネット情報	25
インターネット情報	19
入試の時に使用した自己推薦書	15
実習必携	14
エントリーシート作成の参考書（インターネット上も含む）	9
過去の先輩のエントリーシート等	6
記載内容に関するもの（部活動・趣味等）	6
配布された資料	5
自分の考え方・1回目のマインドマップ	4
親・友人の意見	3
計	106

表5 エントリーシートを作成した感想

エントリーシートは役に立った	
歯科医師としての将来のイメージが明確になった	19
自分を見直す良い機会となった	16
エントリーシート作成は役に立つ	3
指導医とのコミュニケーションに役立った	2
計	40
エントリーシートを書くのは難しい	
自己PRは難しい	15
将来のことを書くのは難しい	7
文章にまとめるのは難しい	6
文字をきれいに書くのは難しい	4
配当された歯科医院では書きにくい	4
計	36
その他	
受験での履歴書を思い出した	3
先生はエントリーシートのどこを見ているのかが気になった	1
罫線がないと文書の書き方の性格がよくわかると思った	1
計	5

名)と言った意見も見られた。一方，書くのが難しかったと言う意見も37件あり，「自己PRが難しい」，「将来のことを書くのが難しい」といった内容に関するもの，「文章にまとめる」，「文字をきれいに書く」といったことに難しさを感じている者もいた。

#### 4. 考 察

##### ① 「本施設の見学を希望する理由はなんですか」について

「回答しやすい」の16名中，自分の目的意識

がはっきりしていたからが8名と半数となっていた。一方「回答しにくい」が52名と多く，そ

の理由としては「自分で選んだ歯科医院ではないので」が38名と、実習先歯科医院を大学が指定していることを指している。

2013年度に本学で「自主創造の基礎(教養演習)」が始まり、インターネット調査を学んだこともあり、個別実習テーマの決定、エントリーシート作成時に、ホームページを参考にするとよいという示唆は与えていた。しかし、2014年度では、事前学習期間に、自己学習としてフィールド調査を課した。これは、学生の住む地域の歯科医院を12件以上調べ、その特徴、立地、ホームページをフォームに記載するものであり、グループ学習の資料ともなるものである。実習先歯科医院のインターネット情報を参考にした者が、2009年では3名(5件)であったのが、2014年は41名(57件)と急増している。また、2013年度まではエントリーシートの「見学先の施設の種別」の欄に「歯科医院(歯科診療所)」とその種別のみを記載させていたのに対し、2014年は「見学先歯科医院の名称」を具体的に記載するように改めたことも、学生が実習先歯科医院への関心を高めた要因となっていると思われる。しかしながら、ホームページを開設していない歯科医院もあり、情報が少ないために書き難いとの意見もある(14名)。また自分で選んだ歯科医院ではないので書きにくいと答えた38名の中にも、指定された歯科医院の情報が少ないことに起因する者も多いと思われる。すなわち、関心が高まったがゆえに不満が生じてきたことを示しており、今後の対応が課題である。

## ② 「10年後のあなたにとって本施設の見学がどのように役立っていると思いますか」について

「回答しやすい」と答えた学生は、学ぶべき事が明確だったから(10名)、自分なりの歯科医師像を持っているため(3名)、自分にとって貴重な機会と考えている者(3名)であり、目的意識を持ち、将来の歯科医師としての自己のイ

メージが明確であるため、現在の見学実習にも打ち込んでいると思われる。

一方、「回答しにくい」と答えた学生の理由は、未来の自分を想像できない(11名)、見学前なのではっきりしない(4名)、想像できない(3名)であり、この見学が10年後に役立つか疑問(3名)、自分の目標が明確でない者(3名)である。将来の歯科医師としての自己像が曖昧で、現在の見学実習にも打ち込めていない。時間的展望の中で自分を位置づけられていない等、自我同一性確立への途上であることが伺える。

## ③ 「あなたの自己PRをしてください」について

「回答しやすい」と答えた学生は、受験で書いたから(14名)、自分のことだから(13名)、自分のことはよくわかっているから(7名)と自己理解の進んでいる者であり、自己PRは大切(2名)と考えている。

一方、「回答しにくい」学生は、自分の良いところを考えたことがない(8名)、したがって、自己PRに慣れていない(6名)、またはアピールできるものがないと考えている学生(6名)であり、自分について考えたことがない者(3名)である。そのため、自己PRが、指導医にどの様に見られるか気になる者(2名)もいる。自己PR、すなわち文章表現になれていないということもあるが、自分は何者かという答をまだ見出していないとも言えよう。

## ④ 「今まで学業以外で力を入れてきたことは何ですか」について

「回答しやすい」と答えた学生は46名と多い。学業以外に力を入れてきたものがある(13名)、部活動を頑張ってきた(7名)あるいは高校の時に頑張ってきたことがある者(5名)たちであり、今までやってきたことを書けばよいので(11名)と感じている。

一方、「回答しにくい」と答えた学生は、書くことが見あたらない(8名)、学業以外で力を入

れたことない者（4名）である。いままで、学業以外に傾倒するものを見出せていない。

⑤ 「あなたは大学を卒業したらどのような社会人になりたいと思っていますか」について

「回答しやすい」と答えた学生は、理想とする社会人について考えていた者(10名)、理想の歯科医師像と重なると考える者（3名）であり、なかには大学受験で問われる質問だからと答えた者（2名）もいた。

一方、「回答しにくい」と答えた学生は、先のことなのでイメージできない(8名)、社会人という意識を今までで持っていなかった者(6名)であり、質問自体に疑問を抱く者（1名）もいた。将来、社会生活を送る上で期待される社会的役割を受け入れる準備はまだ出来ていないと言えよう。

歯科医師としての自分という職業的同一性の発達は、自我同一性の発達に伴っている。自我同一性の確立、すなわち自分が自分であるという確認は、青年期後期において重要な発達課題となっている。自我同一性の確立に伴って、自分が大切にするのは何か、自分が打ち込むべき物は何かが明確となってくる。山下（1975）によれば、エリクソンは、自我同一性が確立したとき、①時間的継続の中で変わらない自分がいるという感覚、②他者とは区別される自己固有の感覚、③集団成員との共属の感覚が生じてくるという<sup>3)</sup>。その確立の過程では、自己と向き合う体験が不可欠となる。川崎（2010）は、今に囚われて将来を見ない、あるいは将来ばかり見ている今を疎かにすると言うのではなく、現在と将来をつなげ、啓発的経験を積み、適職を「育てる」考え方を持つことが大切であると述べている<sup>4)</sup>。エントリーシート作成の過程は、今までの自己と向き合い、将来の自分を想い、現在の

自分の在り方を確認することである。すなわちスーパーの職業的発達理論（自己概念理論）が述べている職業的発達の過程は、自己概念(self concept)の発展と受容、探索と現実吟味、自己概念の実現（職業的自己実現）へと順次進展する過程を援助するものであると言えよう<sup>5)</sup>。

## 5. 結 論

当研究室で開発したエントリーシートは、第1学年の早期体験学習から使用することによって、自己と向き合う機会を提供し、自己理解を深め、文章で表現していく力を養っていくための教材として有効であり、キャリア教育に貢献するものであることが示された。

## 文 献

- 1) 宮川幸夫 (2009) 卒前歯科医学教育カリキュラムの現状と改革の方向, 『日本歯科医学教育学会雑誌別冊 歯科医学教育白書2008年版 (2006~2008)』, pp.38-43.
- 2) 山崎晴美, 三澤麻衣子, 上原任, 尾崎哲則, 桑田文幸, 中島一郎 (2014) 第1学年歯科医院見学実習の事前・事後教育における発見的学習の展開—キャリア教育における学習方略への焦点化について—, 日本大学歯学部紀要第42号 (in printing).
- 3) 山下栄一 (1975) 青年期の自分 (自己) の発達: 井上健治, 柏木恵子, 古沢頼雄編『青年心理学: 現代に生きる青年像』, 第2章第1節, pp. 106-119, 有斐閣.
- 4) 川崎友嗣 (2010) 「将来のヒントは現在と過去のなかにある」: 生駒俊樹編著『実践キャリアデザイン—高校・専門学校・大学』, 第6章, pp. 76-87, ナカニシヤ出版.
- 5) 野淵龍雄 (1991) 進路指導の理論: 仙崎武, 野々村新, 渡辺美枝子編著『進路指導論』, 第3章, pp.38-54, 福村出版.